

# 福祉パレット



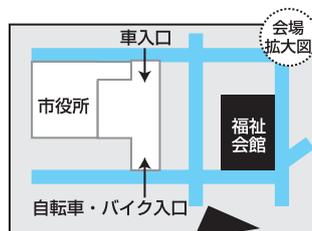
第2回

## 社協まつり

平成21年11月1日(日) 午前9時30分～午後3時

場所 向日市福祉会館 (向日市寺戸町西野辺1-7)

主催/向日市社会福祉協議会 後援/向日市・京都新聞社  
 お問い合わせ 932-1960



駐車場には限りがありますので、徒歩や自転車、車の相乗り等のご協力をお願いします。



入場無料

社協まつりでは、向日市社会福祉協議会と地域の福祉関係団体（ボランティアグループ・ふれあいサロン・地区社協・福祉施設）が、日ごろの活動をPRしたり、作品の展示・販売を行います。また、模擬店や人形劇、ビンゴゲームなどもありますので、ご家族やご近所おそろいで、ぜひお越しください。

### 内 容

- 表彰式 午前9時30分～
- 模擬店 午前10時15分～  
 やきそば、カレー、おでん、フランクフルト、コロッケ、からあげ、おおすび、飲み物、スーパーボールすくい、ヨーヨーつりなど
- 人形劇 午前11時～ 『劇団クラルテ』
- もちつき 午後12時～
- ビンゴゲーム 素敵な景品多数あり
- お口の健康教室 午前10時～
- ちびっこ鉄道模型運転会
- ボランティア団体による展示・舞台発表
- サロン展示体験
- 福祉施設・団体作品展示販売
- 福祉用具展示販売
- マジックショー
- キッズルーム 楽しいおもちゃがいっぱい
- ミニステージ (合唱・オカリナ・民謡・大正琴・ハーモニカ・楽器演奏)
- 介護相談

きりとり

第2回社協まつり  
**ポップコーン  
 無料券**

午前10時15分～午後2時  
 先着500名



きりとり



## まちかどウォッチング



梅雨明けを感じさせる強い日差しが降りそそぐ中、市民プールは多くの親子連れで賑わっていました。

子どもたちは、水をかけ合ったり、泳いだりと夏を満喫。元気いっぱいな姿がとても印象的でした。

親子一緒に楽しめるプールは、夏の思い出となったことでしょう。



撮影：平成21年8月17日（火）

## 気温35度の猛暑日の中

## くらしの資金(冬期)のお知らせ

一時的にお金のやりくり困ったり、緊急に資金を必要とする世帯のために、「くらしの資金」の相談を受付けます。

### ●受付期間

12月1日（火）～11日（金）午前9時～午後4時（土・日曜日を除く）◎要予約

### ●貸付限度額

1世帯あたり10万円以内

### ●ご相談は、地域福祉係（電話932-1961）まで。



あたたかいお正月を迎えていただくために

## おせち料理配食のお知らせ

対象者 ●市内在住で70歳以上のひとり暮らしの方

料 金 ●2,000円

内 容 ●6寸1段(4,000円相当)

申 込 ●配食を希望される方は、お住まいの担当民生委員を通じてお申込ください。 ※11月2日(月)～12月7日(月)まで受け

## 福祉サービス利用援助事業のご案内

あなたの「困った！」  
をお手伝いします

たとえば…

### 困ったこと

銀行や郵便局でお金を出し入れすることが一人では不安である。

一人で税金や公共料金、光熱費等の支払いをすることが難しい。

役所からの郵便物の内容がよくわからない。

通帳や印鑑、または大切な書類を自宅に置いておくことが不安である。

福祉サービスを利用したいけれど、内容や利用方法がわからない。

### お手伝い

銀行や郵便局に同行したり、あなたの代わりに行ったりします。

あなたの代わりに支払いをします。

わかりにくいところをわかりやすく説明します。また、必要な手続きを代行します。

向日市社協の金庫で預かります。

福祉サービスの内容やどうしたら利用できるのかを説明します。

この事業は、認知症や知的障がい、精神障がいのある方を対象としています。また、ご利用は審査を受けてからとなり、利用料が必要ですが、あなたが必要とする頻度に応じて、生活支援員がお手伝いします。くわしくは、地域福祉係までご相談ください。

# 「ふれあいサロン」のご紹介

現在、「ふれあいサロン」が地区社会福祉協議会(注1)やボランティア団体の運営により、16か所で行われています。

「ふれあいサロン」は、身近な地域で、高齢者の生きがいや社会参加、健康づくり、閉じこもり防止を目的に、高齢者とボランティアが一緒に企画・運営しながら、茶話会やレクリエーション、小物作



サロン・かぐやみゆめ相・あい古い浴衣の切れ端と厚紙を使って、カードケースを作りました！

り等を定期的に開催し、楽しく・気軽に仲間づくりを行う活動のことを言います。

このサロンに参加を希望される方や運営に参画される方は、地域福祉係までお気軽にお問い合わせてください。

(注1)

地区社会福祉協議会(略称:地区社協)とは、小地域(自治連合会・区)を単位と



サロン・ピーチク大きな色紙で、箱を折りました！

して、福祉活動を推進する地域住民主体の団体で、高齢者の配食活動や世代間交流行事、地域福祉懇談会等の活動を展開されています。

向日市社協のホームページ(<http://www.nuko-shakyo.or.jp/>)でも、ふれあいサロン活動や地区社協について、くわしく紹介していますので、ご覧ください。



サロン大牧みんなで心を込めて、栄養満点のお料理を作りました！

## 地域支えあいベル設置のご案内

向日市社協では、70歳以上の高齢者世帯(ひとり暮らしを含む)で、日常生活に不安のある方を対象に、「地域支えあいベル」を設置しています。

このベルは音と光による報知性能を備えた機器のことを言い、対象者の自宅に、無料で設置します。

緊急時にベルを鳴らすことで、近所の方々に駆けつけていただき、安否確認や通報等に協力していただく仕組みになっています。なお、対象者であっても、「あんしんホットライン」が設置されている世帯は対象外となります。ベルの設置を希望される方は、地域福祉係までご相談ください。



家屋の外壁等にベル本体を設置し、屋内にはスイッチを2か所設置します。

# 「高齢者見守り隊」とは？

## 高齢者が安心して暮らせる仕組みづくり

### 地域サポーター養成講座のお知らせ



核家族化や地域のつながりの希薄化が進む中、高齢者の悪徳業者からの被害や孤独死、介護トラブルなどが、地域の大らかな課題となっています。社協では、「高齢者見守り隊」事業として、制度や介護サービスでは解決できないさまざまな問題を地域のみならず一緒に取組み、高齢者が地域で安心して暮らせる仕組みづくりに努めています。

向日市では、「高齢者見守り隊」として地域サポーターのみなさんが活躍中です。この活動は、介護を必要とする高齢者が増える中、制度やサービスでは対応できない、地域で孤立しがちな高齢者に寄り添った在宅訪問（交流・話し相手）のボランティア活動をしようという市民の声から始まりました。

地域サポーター活動とは、困っている人を助けるための活動ではなく、老いや悩み、寂しさを理解することによって、高齢者が心豊かに生活できるようにするための新たな地域づくりの形です。

この講座では、地域の要介護高齢者のことを考えたり、これからの高齢社会の住民同士の支え合いについて、講義やディスカッションを交えて学びます。

#### 「高齢者の理解と地域課題」

同志社大学准教授

永田祐さん

② 10/22(木) 13:30～16:00

① 地域の高齢者の見守り活動  
地区社会福祉協議会による配食・会食会活動（6地区）  
ふれあいサロン活動（16か所）

● ボランティア活動

● その他

② ニーズや課題に対応した取り組み  
地域サポーターによる在宅への訪問活動

● 趣味や特技を生かしたボランティア活動

● 福祉活動従事者の相談機能の拡充

● 専門機関との連携と協働

● その他

開催日時と内容

【入門編】

① 10/16(金) 13:00～15:30

#### 知識と作業療法

佛教大学教授

赤松智子さん

【上級編】

⑥ 11/20(金) 13:30～16:00

「活動にあたってのセルフマネジメント」  
立命館大学准教授

⑦ 11/27(金) 13:30～16:00

「地域サポーター活動を展開するために」  
関西学院大学教授

山本 隆さん（向日市地域活動計画策定委員長）

④ 11/5(木) 13:30～16:00

「高齢者がいきいきと生活するための自立支援のアプローチ」  
龍谷大学教授

村井龍治さん

⑤ 11/12(木) 13:30～16:00

「高齢者がいきいきと生活するために」認知症の基礎

## ボランティア募金箱の設置のお願い 地域のやさしさの窓口を増やしましょう！

社協ではボランティア活動センターを設置して、さまざまな個人や団体の登録を受付け、地域や高齢者、障がい者の福祉といった分野で活動されるみなさんを支援しています。

ボランティア活動は、無報酬、手弁当と自費によるところですが、活動を促進するために、社協では基金を造成し、運用益で資金的な援助をしています。

市民のみなさまにボランティア活動への支援をお願いするため、市内の事業所に「ボランティア募金箱」の設置を進めています。



くわしくは、向日市ボランティア活動センター（向日市社協地域福祉係）へお電話ください。

## 「福祉とボランティア」出前教室 地域や職場で福祉やボランティアを考えてみよう！

福祉講話やボランティア活動体験などを通じて、人にやさしいまちづくりの理解を深めるとともに、より多くの方がボランティア活動に参加するためのきっかけづくりをお手伝いします。

○学校、自治会、子ども会、事業所などに講師を派遣します。

○プログラムは、「点字」「アイマスク」「手話」「車いす」「要約筆記」体験や「セラピードック」などの福祉・ボランティアに関する講話があります。



申込のご相談は、1か月前までに地域福祉係へお電話ください。

子どもたちも手話・ろうあ者のことを学んでいます。

# ヘルパーと ともに パート18



優しく熱い思いの俣野さん

## 前向きに 生きられる

俣野 茂さん (85歳)

いつも前向きに生きておられる俣野さんにお話を伺いました。

### ▼プロフィール

京都府亀岡市で生まれ、「子ども」のころは親の手伝いをよくした。」と話される。京都の日新電機に定年まで勤められました。その当時は「変電所などの電気工事を任せられ、図面作成から完成まで1、2か月家に帰れなかった。京都北山の地下鉄、大阪や名古屋の地下鉄、京都市民病院、京都大学、立命館大学などの変電所工事を任せられた。川崎製鉄から初めて仕事の依頼を受けた時は、自分が作った工程計画どおりに作業が進み、それで信頼を得て、変電所の鍵まで預けられたこともあった。」と話されます。それまでの実績が認められ、退職後は6社から仕事の誘いがあり、そのうちの1社

で正規職員として77歳まで勤め、あと1年はパートで図面書きの仕事がされました。奥さんの晩年は入退院を繰り返しておられ最後の3年間は、仕事をしながら毎日病院に通い、看病をされていました。が、平成2年に逝去されました。

### ▼病気と生活

平成17年に突然動けなくなり、長期入院されました。退院後も足の腫れで受診しようと思っていた矢先に、急に五体が動かなくなり、救急で入院されました。が、両下肢の痛みが強く、ほぼ全介助状態となり、回復が難しい状態だったそうです。それでも懸命のリハビリで回復され、医師からは「こんな人は珍しい」と驚かれたそうです。現在も訪問マッサージを受けて、積極的に歩行練習などをされています。1年前はトイレに行けなかったのが、今ではトイレを改修し、車椅子を利用してご自分で排泄できるまでになりました。今はおひとり暮らしで、サービスを受けながらも自立した生活がされています。

### ▼いつも心がけ

「自分でできることは頑張ってお努力すること。出張先で同僚が夜テレビを見ているときも図面や英語の勉強をした。」また、「その日の仕事は『ロイヤリ、

1日も延ばすことはなかった。」と話されます。人との付き合いは「その人がどういう人か見て、この人にはこうせなあかんとお思って仕事をした。」人が失敗しても「失敗は誰にでもあるので責めない。あとは様子をみている。」と言われます。

### ▼お楽しみ

「元気があった頃はスポーツが好きで、していないのはテニスぐらい。特に野球やゴルフはよくやった。ゴルフは75歳までやった。」「鮎などの魚つりやライオンズクラブに入ってボランテニアをしていた。」「今ではテレビを観ることで、デイサービスのカラオケで歌うこと。家での練習の成果で高い声も出るようになった。」と言われます。北島三郎や氷川きよしの歌がお得意だそうです。

### ▼俣野さんとヘルパー

ホームヘルパーは？事業所が



ヘルパーと俣野さん

ら、デイサービスの日は1日2回、それ以外の日は1日3回、利用されています。内容は調理・掃除・洗濯・足浴・排泄の一部介助(必要時)・デイサービスの準備と送り出し・ごみ出しなどの援助を受けておられます。援助については「冬の間は足が冷たく、ヘルパーさんが毎朝、足浴してくれて嬉しかった。そのお陰で、足の感覚が分かるようになった。」「ヘルパーさんには何も注文することは無いし助かっている。みんな、やってほしい事をすつすつとしてくれる。」と言ってくたさいます。

### ▼ヘルパーへの思いやり

ヘルパーが調理したおかずは残さずに食べてください。仕事に対しては「こうしてくれるか」とか、迷っていたら「こうしたらいい」と教えてくださり、その時の声のトーンや言い方が優しく、緊張せずに仕事ができます。自分のしてほしいことのイエス・ノーをはっきり言っていたら、仕事がやりやすいです。頼みにくいことでも「本当は世話になりたくないけど、できなくなったので頼むわな」と言ってくたさいます。俣野さんの人や物に対しての優しさや前向きな生き方を学び尊敬しています。

(掲載する内容・写真は、あらかじめご本人・ご家族から承諾を得ています。)

登録ヘルパーさんを  
募集しています

お問い合わせ先

向日市社協ホームヘルプセンター TEL: 932-1968

楽しく一緒に働きませんか!!

# 「いつまでも安心して暮らせる地域づくりのため」

「いつまでも安心して暮らせる地域づくりのため」

急速な高齢化社会の進展により、認知症の方が増えています。

向日市社会福祉協議会では、住み慣れた家庭や地域で安心して暮らせるように、地域住民の皆さんとともに、見守り支えあえる地域づくりをめざしています。

そこで、多くの皆様に認知症への理解を深めていただき、

共生の地域づくりを進めるために「認知症サポーター養成講座」を開催いたします。

日程等が決まり次第チラシ等でお知らせいたしますので、多数のご参加をお待ちしています。

## 出前講座のご案内

市民で構成する15人程度のグループや団体に、地域包括支援センターの職員が地域に向いて、介護保険制度や介護予



防、認知症予防について講座を行います。

### ○出前講座メニュー

- 1 介護保険制度を知る
- 2 自分の身体を知り、介護予防に役立てる
- 3 認知症予防について

### ○費用 無料

### ○会場 市内に限ります

### ○申込

所定の用紙にて地域包括支援センターまでお申込ください。

まずは、電話（9211-1550）でご相談ください。できるだけ希望される日の2か月前までにお申し込みします。

## インフルエンザを予防するには

新型インフルエンザは日本各地で少しずつ感染者が増えていますが、日頃からの感染予防が大切です。

○帰宅後の手洗い・うがいを日常的に行いましょう。

○手洗いは、石鹸などを用いて最低15秒以上行いましょう。

○石鹸をつけて指を組んだりして指と指の間や爪の間もしっかり泡を立てて洗いましょ。

○洗った後は、清潔な布やペーパータオル等で水気を十分にふき取りましょ。

○手指消毒用アルコールなどを使う場合は、指の間や指先までしっかりと乾燥するまで擦り込みましょ。

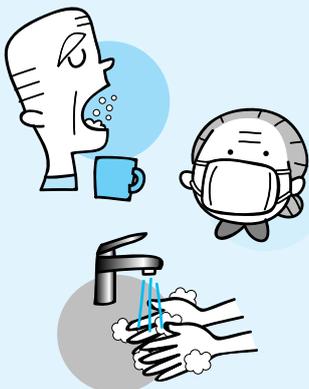
○部屋は定期的に換気を行い、乾燥に気をつけ、適度な湿度（50～60%前後）を保ちましょ。

○人混みや繁華街に出かける時はマスクをすることも効果的です。

○日頃からバランスよく栄養をとり、十分に休養し、体力や抵抗力を高めましょ。

咳やくしゃみなどがある人は、マスクをつけるなど「咳エチケット」を心がけましょ。

### 健康コラム



向日市介護者の会  
代表世話人  
乾 正剛さん



向日市社協では、市内で社会福祉に携わって活躍されている方や団体にインタビューを行い、その方の社会福祉活動の内容等をご紹介します。「この人に聞く」コーナーを開設しています。今回は、向日市介護者の会 代表世話人の乾正剛さんに、会の活動内容等について、お話を伺いました。

向日市社協では、市内で社会福祉に携わって活躍されている方や団体にインタビューを行い、その方の社会福祉活動の内容等をご紹介します。「この人に聞く」コーナーを開設しています。今回は、向日市介護者の会 代表世話人の乾正剛さんに、会の活動内容等について、お話を伺いました。

▼向日市介護者の会とは？

向日市介護者の会は、介護保険制度の施行に併せて、平成12年4月28日に、世話人5名と会員30名で、設立されました。

会員の方々は、寝たきりや認知症の高齢者を在宅で介護されている方が中心で、『介護に関する知識や情報の共有』と、『感性の共感』をテーマに、活動されています。

主な活動内容は、次のとおりです。

①交流会（年6回開催）

介護者同士だからこそわかり合える悩みや辛さを打ち明け合って、その体験から得た知識や情報等について、意見

交換をされています。交流会の案内チラシには、介護に関する情報を掲載され、ミニ広報誌として、会員に配布されています。

②懇親会（年2回程度開催）

リフレッシュのために、昼食・懇談会を開催されています。

③施設見学会

介護者の立場で見学をし、実際に利用もされています。

乾さんに、増加している認知症の高齢者を地域で支える方法について、伺ったところ、『地域で支える』と言っても、具体的に何をすれば良いのかわからないのが実情です。ただ認知症は、健常者には縁遠く思いますが、発症の原因がわからない今の段階では、誰にでも起こり得る病気でもあります。だとすれば、認知症がどのような病気なのかを知るとともに、どのような介護や支援が必要かを学ぶことが大切です。そのために、介護者の声に耳を傾けて、介護の実体験を聞くことも大切です。』

と話されました。

▼活動の課題とやりがいとは？

設立当初に比べると、現在は、介護の重度化や広報周知の限界等を理由に、会員数が減少しているようですが、乾さんは「必ずしも会員数が増えれば良いと言うわけではありません。むしろ、会員の一人ひとりが自分の思いを十分に話すことができ、他の会員がともに考え合う場を作ることが大切だと考えています。」と話されました。

また、「会を設立して以降、未熟で、何もできていないと言うジレンマがありますが、最近では、リピーターとして、参加してくださる方が増えていることが喜びです。こう言った方々を支援していくことこそが会の基本的な出発点です。」と笑顔で話されました。

▼ふれあいと思いやりのまちづくりを実現させるためには？

向日市社協では、平成14年度に策定した『地域福祉活動計画』において、『ふれあいと思いやり

のまちづくり』をスローガンに、日々地域福祉を推進しています。

乾さんにこのスローガンを実現させるために必要なことをお伺いしたところ「向日市のボランティアの方々には、皆さんこのスローガンと同じ思いで活動しておられます。社会福祉法の第109条には、『社会福祉協議会は、社会福祉を目的とする事業の企画や実施、連絡調整等を行うことにより、地域福祉を推進する団体である』と定められています。市内には、多くの関係機関・団体が存在していますが、横の繋がりがなく、交流や連携の機会がほとんどありません。向日市社協にはこれらの機会を設けていただきたいので、これを機に、新たな出会いや繋がりが増えることを期待しています。」と熱心に語っていただきました。

向日市社協では、今後も「この人に聞く」コーナーにおいて、「ふれあいと思いやりのまちづくり」の実現に向けて、メッセージを発信していく予定です。

(愛称：むつみん)



向日市社協の広報誌「福祉パレット」に関するお知らせ

向日市社協の広報誌「福祉パレット」は、市民の皆様から寄せられた善意の「赤い羽根共同募金」の配分金を財源として、年に3回(3月・7月・11月)発行しています。

今後も市民の皆様に関心と親しみを持って読んでいただけるよう、紙面の充実に向けてまいりますので、「福祉パレット」に対するご意見やご感想、ご要望等がありましたら、お気軽にお寄せください。

お問い合わせ先

- 総務係 932-1960
- 地域福祉係 932-1961
- 障害者地域生活支援センター 932-1990
- 地域包括支援センター 921-1550
- デイサービスセンター 931-3294
- ホームヘルプセンター 932-1968
- 居宅介護支援センター 931-3030
- 福祉会館 931-3322

